

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	91	人	国語B	91	人
② 数学A	91	人	数学B	91	人
③ 理科	91	人			

5 留意事項

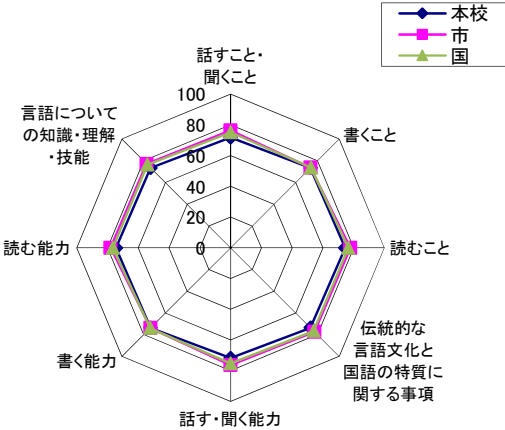
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

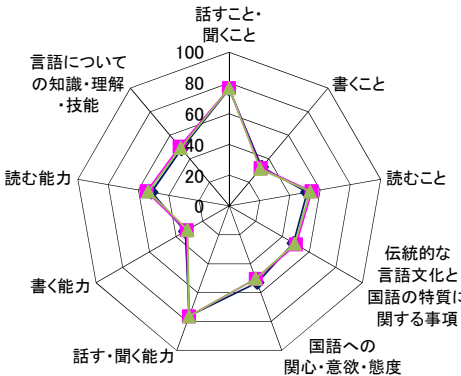
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.8	76.4	75.2
	書くこと	73.6	73.7	73.9
	読むこと	74.5	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.6	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	71.8	76.4	75.2
	書く能力	73.6	73.7	73.9
	読む能力	74.5	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	73.6	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.2	76.5	76.6
	書くこと	33.0	31.9	31.3
	読むこと	51.5	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	48.4	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	53.1	50.6	50.3
	話す・聞く能力	76.2	76.5	76.6
	書く能力	33.0	31.9	31.3
	読む能力	51.5	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	48.4	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

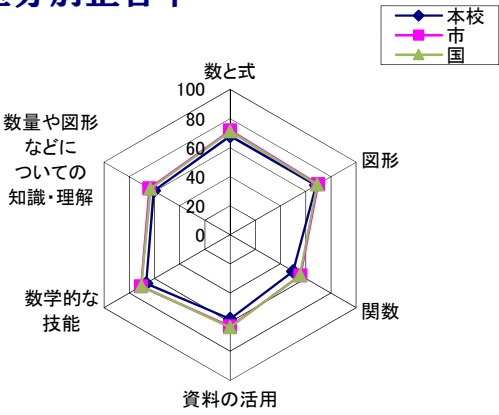
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	国語Aは国、市の平均と比べ低い。国語Bはほぼ平均。 ○話の展開に注意して聞き、質問する出題は9割以上正答し、国、市の平均より高い。 ●話し合いの方向を捉えること、そこからの確に話すことの出題に対する正答率が低かった。	・授業において、ペアやグループの話し合いや、意見発表など様々な場面を想定した言語活動を多く取り入れる。 ・聞き取る際のメモの取り方の指導など、相手の話の要点を的確に捉えられる指導の工夫を行う。
書くこと	国語Aは、国、市の平均とほぼ同じ。国語Bは平均よりやや高い。 ○段落相互の関係に注意し分かりやすい文章を書く設問は、8割以上の正答率で、国、市の平均より高い。 ●目的に応じ内容を整理して書く出題は平均より高かったが、正答率自体は2割弱と低い。下書きの検討に関する出題は平均より低かった。	・無答率を下げるため、書くことに対する苦手意識を持つ生徒を支援する。書く機会を意識的に増やし、自分の考えを言葉として表現する力を育てる。 ・読み取ることの授業とも関連させ、文章の要約や相手を意識した場面設定をするなど、効果的な表現ができる力を身に付けさせる。
読むこと	国語A、国語Bとも国、市の平均よりやや低い。 ○登場人物の描写を読み取る出題は8割以上の正答率であった。 ●文章の展開に即して情報を整理して捉える出題や、人物の言動の意味を考え理解する出題の正答率が、平均と比べ10%近く低かった。	・文章を読み取る際の基礎となる語彙力を高めるため、辞書の活用を習慣化させる。 ・読み取る際の裏付けとなる表現や、人物の言動などに着目させて理解へとつなげる授業を行っていく。 ・読書指導を継続するとともに、良書を選べる力をつけることも目指す。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語A、国語Bとも国、市の平均より低い。 ○接続詞の働きに関する出題は9割近い正答率だった。 ●漢字の書きに関する正答率が低い。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに関する正答率が、いずれの出題も低く、10%以上低い設問もあった。古典に関する正答率も低く、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す出題も正答率が54%と低かった。	・漢字は定期的な小テストを今後も続け、生徒自身が継続して取り組む姿勢を育成する。 ・語句の意味は辞書的な意味だけでなく、文脈の中で捉えたり、自分の文章に生かしていけるような機会を設定する。 ・古典の基礎となる音読みや、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書かせる活動の時間をしっかりと確保し、苦手意識を持たせないようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

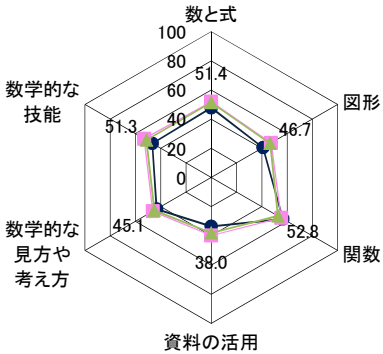
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.0	71.7	71.1
	図形	68.2	69.7	69.1
	関数	50.0	55.8	55.5
	資料の活用	57.7	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	66.6	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	60.6	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	47.8	52.0	51.4
	図形	41.0	47.3	46.7
	関数	56.8	55.4	52.8
	資料の活用	33.5	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	43.2	46.3	45.1
	数学的な技能	46.7	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

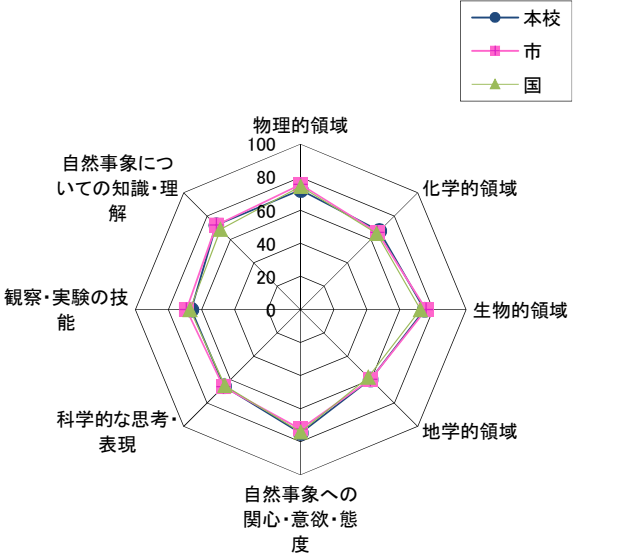
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数を使って、反対の意味を持つ数量を表す問題では、国や県より6～7%上回っている。 ○連立方程式の立式の問題では、県よりも3.5%、国よりも2.8%上回っている。 ●市や国の正答率よりも【数学A】で約3%、【数学B】で約4%下回っている。 ●方程式を解くときの等式の性質を問う問題では、国よりも9%下回っている。	・累乗やかっこを含むやや難しい計算になれるために、演習の時間を多くとり、計算力の定着・向上を図る。 ・基本的な用語の理解や性質の定着が弱いので、単元末テストや定期テスト等で繰り返し出題し、定着を図る。
図形	○回転体や投影図など、立体図形に関する見方の問題では、国や県の正答率を上回っている。 ●市や国の正答率よりも【数学A】で約1%、【数学B】で約6%下回っている。 ●証明の一部を書き直す問題では、国や県の正答率を10%以上下回っている。	・図形の性質の基礎を定着させるために、小テストを行うなど繰り返し学習させる。 ・証明や説明の問題の正答率が低いので、授業の中で簡単な証明問題を繰り返し解く機会を与え、証明の流れを身に付けさせる。
関数	○【数学B】で市の正答率よりも1.4%、国の正答率よりも4%上回っている。 ○グラフから必要な情報を読み取る問題では、国や県の正答率よりも8%上回っている。 ●市や国の正答率よりも【数学A】で約6%下回っている。	・変域や増加量など、基本的な内容の定着を目指し、授業のはじめに前時の振り返りを繰り返し行う。
資料の活用	○同様に確からしい試行の確立を求める問題では、国や県の正答率とほぼ同じである。 ●市や国の正答率よりも【数学A】で約5～6%、【数学B】で約5～6%下回っている。	・中央値、最頻値など用語の意味を定着させるために、小テスト等を用いて繰り返しの機会を設ける。 ・数学的な表現を用いて説明する力を養うために、少人数グループでの活動で、お互いに自分の考え方を説明する活動を取り入れる。

宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	72.4	75.7	74.4
	化学的領域	67.2	65.8	65.0
	生物的領域	74.9	75.9	72.5
	地学的領域	59.8	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	74.7	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	65.6	66.0	64.9
	観察・実験の技能	66.2	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	72.3	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○光の反射の規則性についてや電流計を回路に接続する方法を問う問題では、国や県を3%上回っている。 ●市や国の正答率よりも、2～3%下回っている。 ●電流の問題で、実験結果を示した表から実験値を読み取る問題では、国や県よりも10%以上下回っている。	・物理領域では、実験を多くし、結果から考察させる時間を多く取るなどの指導を工夫し、科学的思考力の向上を図る。 ・計算問題に苦手意識があるため、基本的な問題を多く解かせるなどの時間を確保していきたい。
化学的領域	○市や国の正答率よりも、約2%上回っている。 ○化学変化と熱で、知識と問題解決の技能を活用する問題では、知識では国や県を4～5%上回っている。また、活用でも、同様に上回っていた。 ●燃焼を科学的に探究する問題のガスバーナーの空気の量を調整する問題では、国や県より7～10%下回っていた。	・化学領域でも、実験結果から考察させたり、結果を表やグラフに表すなどの作業に時間を確保するなど、実験・観察の技能の向上を図る。 ・化学式や基本的な用語が定着していないので、基本的な問題を多く解かせるなどの時間の確保や小テストなどを活用し、定着を図る。
生物的領域	○国や県の正答率よりも、約2%上回っていた。 ○神経系のはたらきや刺激と反応を問う問題では、わずかながらあるが、国や県を上回っていた。 ●市の正答率より、1%下回っている。 ●植物の葉から水蒸気がでるはたらきについてを問う問題では、県をわずかながら下回っていた。	・観察結果から、考察する時間を確保し、実験・観察の技能の向上を図る。 ・計算問題に苦手意識があるため、基本的な問題をくり返し定着を図る。
地学的領域	○国の正答率よりも、2%上回っていた。 ○太平洋高気圧の特徴を問う問題では、国や県を9～12%を上回っていた。 ○市の正答率と同じであった。 ●台風の進路をシュミレーションの結果を考察する問題では、国や県を8～11%下回っていた。	・結果から考察する問題で、記述する技能が弱いので、授業の中で考察する時間を確保し、記述問題を解く力をつけていった。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っていますか」の回答が県を8ポイント全国を13ポイント以上上回っており、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の回答も県を7ポイント全国を14ポイント以上、上回っていることと合わせて、計画的に自分の目標を実現するための努力をしている姿勢がうかがえる。

○「家で、学校の宿題をしている」「家で学校の予習・復習をしていますか」の回答が県より10ポイント、全国より22ポイント多く、家庭学習をする習慣が身についてきており、学校で取り組んでいる自主学習ノートを活用している成果の表れでもあると考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。

○「1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の回答が県より13ポイント以上、全国より20ポイント以上高く、地域で起こっていることやボランティアへの関心も高い。

●「学校での授業時間以外に普段1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか」の回答で2時間以上勉強するが県、全国より7ポイント以上低い。これは宿題など決められたことはやるが、それ以外の学習は短いということで、今後学習の質を高めながら時間をいかに確保させるか指導する側の課題と思われるので、自主学習ノートやスタンダードテストなど現在取り組んでいる学習を活かしながら取り組んでいきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主学習ノートの作成 （家庭学習の充実と継続をめざして）	毎日、必ず大学ノート1ページ分の学習を家でやってくる。	「自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の宿題をしている」割合が全国、県より10ポイント以上高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語AB、数学AB、理科ともに問題を解く時間が十分でなかったと回答する生徒が10ポイント以上多かった。これは日頃から問題を理解し手際よく解いていくことができない。ということで授業はもちろん、普段の学習の質を上げていくことが必要である。	問題の意味を理解し、速く正確に解けるようにする。 自主学習ノートの質を上げる。	数学など小テストを時間を決めて継続実施し、速く正確に解く練習をするなど。 漢字練習や簡単な計算などの安易にできるものから文章題の立式など考えて学習するものへ高めていく。